3DプリンターやｉｏＴ活用
ものづくり研究拠点
神戸大

神戸大学は新たなものづくりの研究拠点「３Ｄスマートものづくり研究センター」を立ち上げた。３Ｄ（３次元）プリンターやあらゆるモノをネットでつなぐ「ＩｏＴ（インターネット・オブ・シングス）」を活用。効率的なオーダーメード型の設計・生産の仕組みづくりや、工作機械の自律運転などに取り組む。

センターは内閣府の戦略的イノベーション創造プログラムで、「革新的設計生産技術」の採択を受けた３つのテーマに取り組む。

このうちの１つは、運動能力や癖に合わせたシューズを実現する。プロの運動選手やスポーツを楽しむ一般の人にセンサーを付けてもらい、そのデータをシューズの効率的な設計などに生かす。介護用品や医療用品などの分野にも応用する考えだ。

工作機械関連では、設計の初期段階で製品開発に関する様々なデータを組み合わせ、画面上でシミュレーションできるシステムを構築する。事前に入力した加工用プログラムによる指令で動かすのではなく、加工中の工具の位置や姿勢から自動的に計算し、自律的に動くようにする技術も開発する。

センターは神戸市にある神戸大学のキャンパスの中に設置する。１２０平方㍍の研究ゾーンのほか、企業や研究機関の関係者を招いて成果を共有するため、対外発信用のスペースも設けた。

掲載日 2015年07月29日 日本経済新聞 地方経済面 兵庫

(C)日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。